

図1 2024年（上）と2023年（下）の漁獲調査結果と水温。●は漁獲調査点を示し大きさはCPUE（イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）を表す。等温線は50m深の水温分布

い、水温及び流向流速について海況速報を発信しています。以下の URL で公開していますので、そちらも参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou.html>

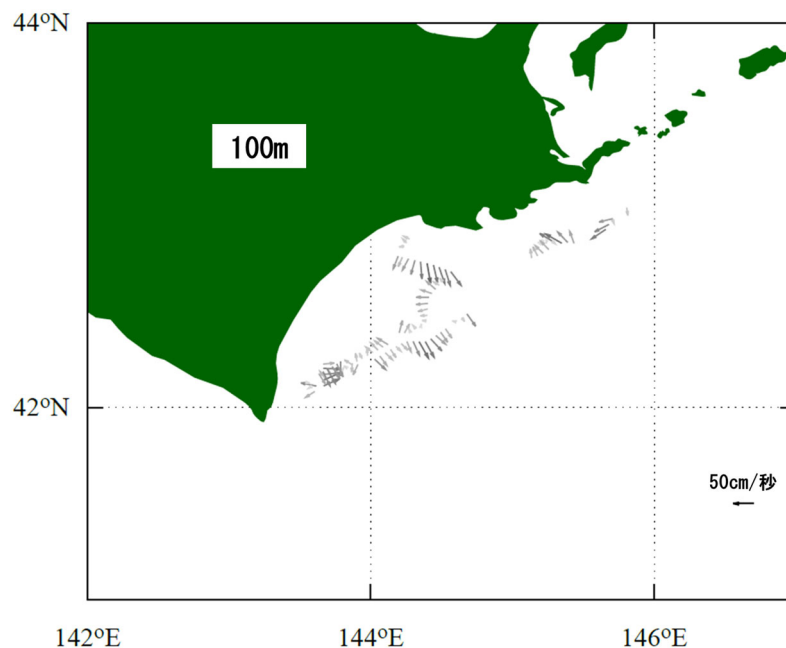


図2 ADCP観測により得られた100m深の流向流速

2. 分布密度（図1、3）

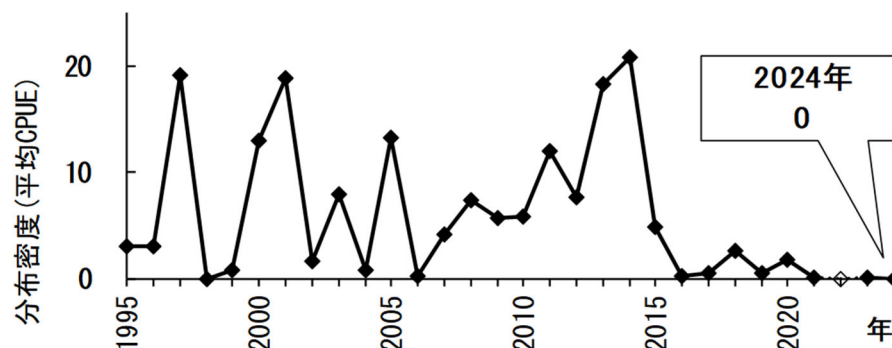


図3 8月道東太平洋調査におけるスルメイカ平均CPUEの経年変化。2022年は調査船故障による調査打ち切りのため参考値

漁獲調査を実施した8調査点いずれもスルメイカの漁獲はなく（図1）、各調査点のCPUE（イカ釣機1台1時間あたり漁獲尾数）の平均は2023年（0.12）を下回り、参考値である2022年を除いて過去初めて0となりました（図3）。今回の調査海域におけるスルメイカの来遊水準は引き続き2016年以降の低い状態にあり、分布密度は極めて低かったと考えられます。

3. アカイカ

本調査でのアカイカの漁獲は5年連続でみられませんでした。

（釧路水産試験場調査研究部 TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）